

あとがき

編集顧問になられた竹中 洋先生の後任として、先月号から編集委員に加わりました。

卒後2年目の私が研修先の病院で経験した急性化膿性甲状腺炎の症例をもとに初めて書いた症例報告を投稿したのが本誌『耳鼻咽喉科・頭頸部外科』でした。急性化膿性甲状腺炎が下咽頭梨状窩瘻によって起こることは、読者の皆様よくご存じのことと思いますが、大学病院から出たばかりの私はこの病態を全く知らず、的確な診断と治療を行うために幅広い知識が必要であることを強く印象づけられた症例でした。部長の市村恵一先生（現自治医科大学教授）に御指導いただき論文を作成したことが、つい先日のように思いだされます。

論文を完成させると、医局の図書室や医学書店でよく目にした本誌を迷いなく投稿先として選びました。あれから20年、後続の商業誌や幾つもの耳鼻科関連学会誌が誕生しましたが、学会誌と違い共著者が入会する必要がない、どの医局にも置かれていて多くの先生方に読んでいただける、症例報告や臨床統計を歓迎してくれるなど、本誌には多くのアドバンテージがあり、興味ある症例、ほろ苦い経験、施設の治療成績などの投稿先として、最適の雑誌であることに変わりはありません。時を経て、伝統ある本誌に、この度、編集委員としてかかわる機会をいただきましたことを心より誇りに思います。

さて、その急性化膿性甲状腺炎ですが、私が論文を書いたときに何となく抱いていた『左側に多い』という印象は、今では常識となりました（ちなみに私の症例は右でした）。当時は外切開による瘻孔摘出が原則でしたが、最近では薬剤を用いて経口的に瘻孔を閉鎖する保存的な治療が試みられるようになってきました。症例報告の積み重ねが、疾患の特徴をより明らかとし、新たな治療法を普及させた典型的な例といえるでしょう。一方、亜急性甲状腺炎としてステロイドを投与されたり、頸部膿瘍として切開排膿されたりする事例を今でも時に見受けます。話題性のある疾患は別として、比較的稀な疾患は、学会の教育講演やレビュー誌の特集として取り上げられることが少なく、症例報告を通じて学んでいくしかありません。症例報告を積極的に掲載している本誌は、『新人の登竜門』としてはもちろん、ベテラン耳鼻咽喉科医の生涯教育にも最適です。ご投稿とともに、折角の論文の『ご愛読』も、どうぞよろしくお願いします。

（丹生 健一）

編集顧問

大和田健次郎

佐々木 好 久

曾 田 豊 二

坂 井 真

竹 中 洋

編集委員

八 木 聡 明

吉 原 俊 雄

丹 生 健 一

耳鼻咽喉科・頭頸部外科（第81巻 第12号）

発 行 株式会社 医学書院

2009年11月20日発行（毎月1回20日発行）

代 表 者 金原 優

定価 2,730 円（本体 2,600 円＋税 5%）

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5710（担当 西塚・安部）

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802（編集室）

E-mail: jikotokei@igaku-shoin.co.jp

振替口座 00170-9-96693 番

印 刷 所 三報社印刷株式会社 電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

2009年 年々ぎめ予約購読料 39,950 円
※電子ジャーナル閲覧オプション付 52,000 円
増刊号を含む13冊、税込、送料小社負担

・医学書院ホームページ（インターネット）は

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/> です。

・「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」のページは

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jikotokei/> です。

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2009, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信（送信可能化権を含む）に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・**JCOPY**＜（株）出版者著作権管理機構 委託出版物＞

・本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、（株）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。